

分科会報告 ④

1. コーディネーター 横田純子

2. テーマ

地域の巻き込み方

3. 参加者数 7名

宮城県 1名 山形県 3名 福島県 3名

4. ディスカッション内容

「地域の巻き込み方」という題にしたのは、コーディネーター自身が地域で仕事を行うためには、人との関わり方や個人個人が大事にしていることを把握し、理解し、尊重することが大事だということを実体験したことからです。そのことを最初に紹介し、自己紹介をふまえてワークショップでスタートしました。

最初は「自分の失敗事例」「成功事例」と2巡を予定していましたが、「失敗は失敗とっていない」という前向きな方が多く、各人が地域でどう活動しているかを紹介するスタイルに変更しました。

参加者には大学生さんもおおり、その人が社会に出た時に役に立つお話であることを前提に、前向きな話が広がりました。

具体的には、東日本大震災をきっかけにライフオーガナイザーに取組み始めた方は、市役所に在籍していたご縁を活かし広まっていった経緯をお話されました。終活を行う人が増えていく中、ライフオーガナイザーが関わることでモノが整理できるだけでなく、残りの過ごし方を考える人が増えているようです。

また、料理店を営んでいらっしゃる方からはお客様への配慮とスタッフの方との情報共有の大切さが、次につながっていくことをお話いただきました。

畑違いの政治の世界に入り、たくさんの人に会う楽しさや人を支える仕事のやりがいを感じている方、介護の世界から独立し個人に寄り添う方、田んぼの真ん中でお店を始めた方、家具の特注に対応する会社を支える方など、お一人お一人が興味深く素敵に活躍している方ばかりでした。

地域を巻き込む、という観点からみると自分の得意分野を理解し、関わる人の思いを大事にすることで顧客を拡大につなげていることが見えました。

地域で活躍する人たちは行政との関わり方も上手だと思いました。

さらには女性ならではのきめ細やかな気配り目配りもあり、それぞれの地域が好きで仕事自体が地域になじんでいることが感じられました。

幅広い業種の方たちがそれぞれの話を聞くことで感じること・学ぶことが多い時間だったと思います。